

[卷 頭 随 想]

日本ブドウ・ワイン学会 (ASEV JAPAN) 出雲大会に寄せて

岡 良美

株式会社 島根ワイナリー 代表取締役社長

第32回の日本ブドウ・ワイン学会2017年度大会が島根県での開催に決まり、皆様方を出雲市へお迎えできることを大変嬉しく思っております。

この時期、島根では全国の神々が出雲の地に集まり、神在月と呼ばれています。神在月とは旧暦の10月を示し、実際の暦では11月になります。全国からワイン関係者の皆様が集まって業界の発展に向け学術的な会が神在にあわせて開催されることは、大変意義深いことであると認識しております。

本県にはお酒にまつわる話が多く存在します。出雲市には酒造りの神である久斯之神(くすのかみ)を祀る佐香神社があります。全国では数少ない酒造が許可されている珍しい神社であり、出雲大社に全国から集った八百万の神々に酒を醸し振る舞ったという伝説があります。また、ササノオノミコトがヤマタノオロチを酔わせて退治した『八塩折之酒』(ヤシオリノ酒)というお酒は、日本書紀に『汝衆菓(いましあまたのこのみ)を以て酒八甕を醸すべし』とあり、醸すを噛みすからの変化とみて、穀類を噛み砕いた製法から日本酒に近いものとする説と、衆菓から果実酒とする説に分かれています。出雲神話や出雲国風土記などのエピソードから、古くより日本酒との深い関係がある島根県は「日本酒発祥の地」と言われています。

また、本県にはワインに関する歴史が少なからず存在します。ブドウ栽培の歴史は古く、慶応年間に浜田市下府町で佐々木新三郎が甲州を植えたのが始まりとされています。以後栽培は次第に普及し、明治39年には28t、大正4年には84tの収穫量が記録されていま

す。収穫量の増大には、明治の時代に山梨県の甲州ぶどうの沿革史を紐解いた近代園芸学の祖、福羽逸人(島根県出身)の存在が大きく関与しております。福羽逸人は西洋種のブドウの栽培やフランス式の棚なしの栽培法を実験し、これらの研究を基に記録された『甲州葡萄栽培法』を明治14年に発刊し、甲州ぶどう栽培に広く影響を及ぼしました。

一方、ワイン醸造に関する記録もあり、明治3年(1870年)には藤村雅蔵(まさぞう)がフランス人ワレット氏(松江藩雇入)の指導を受けてヤマブドウで赤ワインを試験醸造したという記述があります。まさに島根県は山梨県と同様に「日本ワイン醸造の起源」ではないかと考えております。

このように日本酒文化、またワインに影響を及ぼした先人達の歴史がある島根県で2017年度大会が開催できることを大変光栄に思うとともに、今大会での研究成果が「日本ワイン」の酒質向上に大いに貢献することを期待しております。今後2018年10月から適用される「果実酒等の製法品質表示基準」に対応し、2020年の東京オリンピックに向け、日本中のワイナリーの皆様と手を携え、世界の皆様に「日本ワインのすばらしさ」をアピールし、市場が大きく拡大しワイン業界が益々発展することを心から願っております。

最後に、今大会の開催に当たりまして多大なご協力をいただきました島根大学、島根県農業技術センターの皆様をはじめ関係者諸氏に心から御礼を申し上げます。